

令和5年第2回 吉田町教育委員会

- 1 開催期日 令和5年2月24日(金)
開会 午後 1時30分
閉会 午後 3時57分
- 2 場 所 吉田町役場 6階 会議室2
- 3 出席委員 塚本 成男 北澤 雅恵
増田 真也 中村 成宏
- 4 議場に出席した者の職氏名 教 育 長 山田 泰巳
学校教育課長 糸田 真男 生涯学習課長 中山 孝宏
主席指導主事 水嶋 浩之 指 導 主 事 平井 奉子
指 導 主 事 谷澤 宏昭 学校教育課統括 山村 加奈子
学校教育課統括 榛葉 知美
- 5 傍聴人数 0人

次 第 (会議録概要)

- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No.1
- (1) 報告事項 2月の教育委員会の状況について
- (2) 町内教職員の状況 休職中の教員の職場復帰訓練について
- (3) その他 学校の取組について 他
- 3 会議録署名委員の指名 北澤委員
- 4 議 事
- (1) 第1号議案 吉田町教育委員会の所管に係る個人情報の保護に関する法律施行条例施行規則の制定について 資料No.2
- ・事務局説明 ⇒ 採決 ⇒ 異議なし ⇒ 原案どおり承認

(2) 第 2 号議案 吉田町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点
検及び評価について 資料No.2

- ・事務局説明 ⇒ 採決 ⇒ 異議なし ⇒ 原案どおり承認

(3) 報告事項

- ア 生徒指導について 【非公開】資料No.3
- イ 令和4年度及び令和5年度就学援助費の認定について 【非公開】資料No.3
- ウ 児童生徒の区域外就学について 【非公開】資料No.3
- エ 指定学校変更の許可について 【非公開】資料No.3
- オ 令和5年度当初予算（案）について 資料No.4

(委員からの質疑・意見)

- ・リーディングDXスクール事業について、補助はいくら出るのか。
⇒ 154万円が、そのまま国費で入ってくる。
- ・総合体育館のトレーニング室の運営状況は、コロナ前と同じような利用ができる状態か。 ⇒ 民間業者に委託し、そこから専門のトレーナー等の指導者を配置してやっている。トレーナーがついたことにより、1日平均5人程度だった利用者数が、30人から50人弱にまで利用者が増えている。
- ・総合体育館は、ワクチン接種会場として利用されているが、今年会場としての利用が減れば、よしスポサークルなどの活動場所となり得るのか。 ⇒ よしスポサークルは、以前は総合体育館でやっていたが、今は体育センターでやっている。今年はどうするかまだ分からない状況である。予算上は、アリーナが解放された場合の燃料費などを考慮して計上している。
- ・子供が減っていく中で、地方公共団体の役割として教育に予算付けをしていかななくてはならないという状況で、榛原高校や相良高校の志願者が定員割れしている状況である。中学校まで吉田町で手厚い教育を頑張って受けさせても、高校からどんどん地域からいなくなると、教育した価値が地域に反映されていくのがいつになるのかという意味で、中学までの教育に力を入れていき、その中で地域を愛するとか、どこに行っても地域のためになるようなとか、学力をつける以外の地域愛の視点、今回「わたしたちの吉田町」の改訂が予算の中に入っているが、そういった充実度、吉田町が教育に一生懸命お金をかけることが将来の吉田町のためになっていくのかという認識でいけば良いのか不安になってくるが、その辺りを町はどう考えているのか。 ⇒ 地域を愛するということは、地域のことを知ることが大前提なので、学校の総合的な学習などで地域の学習に力を入れているということが、地域愛を育てることだと考える。

「わたしたちの吉田町」は社会科になるが、3年生くらいから地域の学習はやっていくし、4年生になると県についてやっていく。そういった地域を知る学習をやっていくことが、地域愛を育てるのに大事なのではないかと思う。

- ・学校教育を核に、コミュニティ・スクールを通じて地域の人も学ぶことができる、学校での学びを通じて、開かれた学校として一緒に地域の人も学ぶことができる学びの拠点という位置づけになると、コミュニティ・スクールの活動に関心を持つよう教員のスキルアップにつながるようなものに予算を付けるなど、今後予算協議する場を持つことができれば良いと思う。世の中が変わっていく中で、今までどおりの考え方ではできないところがあり、答えもない話なので、総合教育会議など、情報の共有や方向性を定める協議の場が必要だと思う。

カ 部活動の地域移行について

(委員からの質疑・意見)

- ・大学の先生などの専門家が委員に入る想定はなかったのか。 ⇒ いきなり専門家というよりは、吉田町として現実的にどうなのだというところを洗うという意味で、今吉田町にいる人の中でやろうと考えた。
- ・今あるものを移行することが可能かどうかを議論するならば、このメンバーでの議論が良いと思うが、そもそも必要なのか、何が必要なのかの議論は、違う形でやる必要があるのではと思う。この形だと、今ある活動をイメージして、受皿としてこれはできる、これはできないというレベルの話になってしまうと思う。「在り方」から協議するとなると、専門的な意見や知見が必要なのではないか。 ⇒ 途中でガイドライン等が大きく変わって、「移行集中期間」という形から「移行推進期間」に緩められたこともあり、学校教育課としても、そもそもどうすればいいのか、中体連の関係もあるといったところで、先が見えてこない状況で、まずは「在り方」としていろいろな人から話を聞いて現実を整頓し、まずはみんなで考えていこうということで、会を立ち上げることにした。いったんこの形で会を立ち上げ、アンケート結果や部活の状況といったデータをテーブルに乗せ明らかにした中で、進めていきたい。

※ この会の議論を踏まえ、部活動の在り方協議会のメンバーに有識者である大学の准教授を委員に加えることとなった。

5 その他

- ・教育委員報告

- ・卒業式におけるマスクの取扱いに関する基本的な考え方について
- ・裁判について
- ・令和5年度吉田町教育大綱・TCPトリビンスプラン策定スケジュールについて
- ・今後の教育委員会等の予定について

6 閉 会